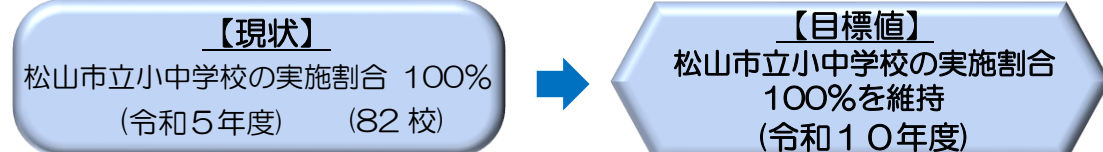
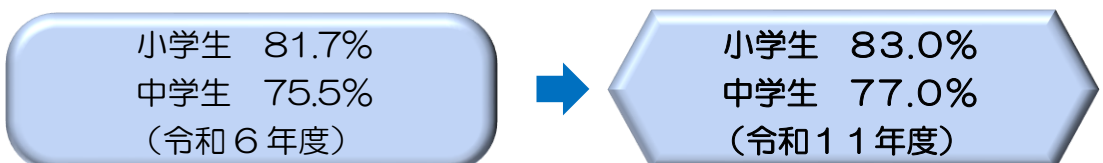


● 評価指標

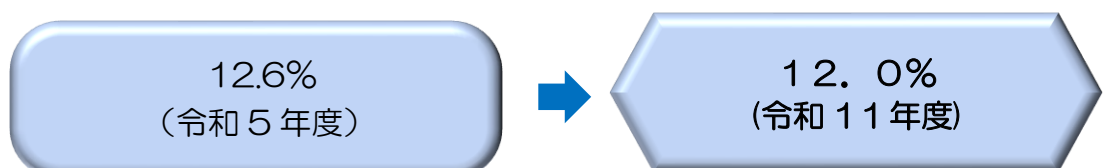
(1) すべての児童生徒に対するSOSの出し方に関する教育の実施



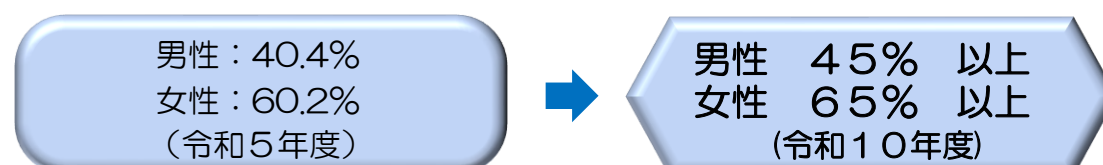
(2) 自分を大切な存在だと思う児童・生徒の割合の増加



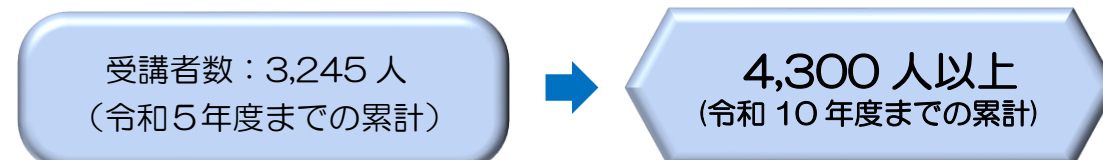
(3) 産後うつ（産後1か月まで）のハイリスク者の割合の減少



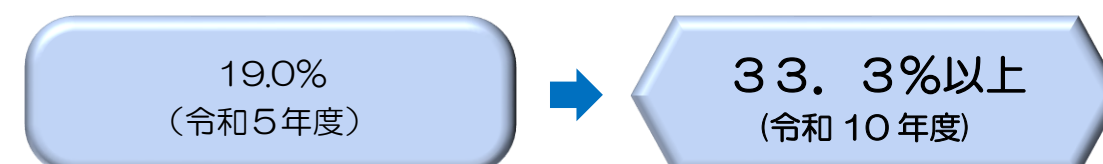
(4) 悩みやストレスを誰かに相談する人の割合の増加



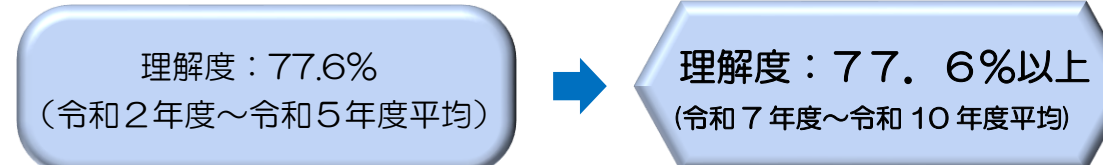
(5) 企業（公務員・学校を除く）を対象としたゲートキーパーの養成



(6) ゲートキーパーを知っている人の割合の増加



(7) ゲートキーパー研修の理解度の向上



第3次松山市自殺対策基本計画

～「誰も自殺に追い込まれることのない松山市」を目指して～



<松山市自殺対策推進キャラクター「リスにん」>

松山市民一人ひとりが、自殺対策の担い手となるゲートキーパー※になってほしいとの願いから生まれたキャラクター。

※ゲートキーパーとは…

悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。話をよく聞き、一緒に考えてくれるゲートキーパーがいることは、悩んでいる人の孤立を防ぎ、安心を与えます。



第3次松山市自殺対策基本計画の概要

みんなで
誰も自殺に追い込まれることのない松山市
を目指しましょう！

● 計画策定の趣旨

我が国では、自殺対策基本法や自殺総合対策大綱に基づき、国を挙げて自殺対策が推進されてきました。本市でも、平成27年に松山市自殺対策基本計画を策定し、続いて、令和2年に第2次松山市自殺対策基本計画を策定するなど、自殺対策を推進してきた結果、平成27年当時と比べ自殺者数は減少傾向にありますが、コロナ禍以降は増加傾向であり、依然として尊い命が自殺に追い込まれています。こうした背景を基に、「誰も自殺に追い込まれることのない松山市」を目指し、「第3次松山市自殺対策基本計画」を策定しました。

● 松山市の自殺の現状

自殺者数の年次推移（図1）

松山市の自殺者数は、平成19年をピークに減少傾向です。

自殺死亡率（人口10万対）

＜自殺死亡率＞
人口10万人当たりの自殺者数。人口規模の違う集団を比較するために使用する指標。
令和5年は17.9で、全国や愛媛県とほぼ同数となっています。

若年層・高齢者の増加

平成26年～30年と令和元年～5年の年代別性別自殺者数を比較すると、20歳代・50歳代・70歳代以上の自殺者が増加しているほか、10歳代女性の自殺者数は横ばいとなっています。

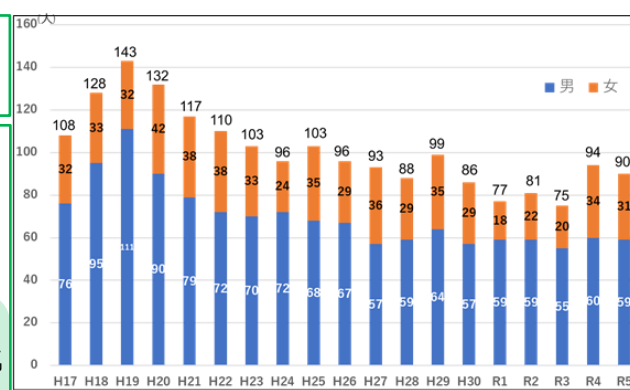


図1. 松山市の自殺者数の年次推移

※厚生労働省「人口動態統計」

自殺者の自殺未遂歴の有無

令和元年～5年の自殺者のうち過去に自殺未遂歴のある者は、21%です。

● 松山市民のメンタルヘルス

令和5年に実施した松山市民を対象としたメンタルヘルスに関する調査

K6（※）を用いたこころの状態の評価

全体では10点以上（心理的苦痛を感じている人）の割合が16.7%と、男性よりも女性の方が高くなっています。

年代別では20歳代が30%で最も高く、次いで30歳代、20歳未満となっています。

日常生活での悩みやストレスとの関連性

こころの状態別でみると、K6の点数が高い方が悩みやストレスがあると回答。10点以上では9割の方が悩みやストレスがあると回答しています。

※ K6（ケーシックス）とは

うつ病や不安障害などの精神疾患をスクリーニングするための質問票です。心理的ストレスの評価として広く使用されており、合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとされています。

国が進めている国民健康づくり運動『健康日本21（第三次）』では、「心理的苦痛を感じている者の減少」を目標として、K6の合計得点が10点以上の者の割合の減少を評価指標としています。

自殺対策として大切なこと

【大切】（「とても大切」「大切」の合計）なこととして、「高齢者の孤立を防ぐ対策」、「景気の早期回復」がともに約91%と高く、次いで「学校での「いのちの教育」や「こころの教育」」、「自殺未遂者への支援」がともに約88%となっています。

もにかけて リスにんぐ

● 松山市の自殺対策

＜基本理念＞ 『誰も自殺に追い込まれることのない松山市』を目指す

＜基本方針＞

- (1) 生きることの包括的な支援として推進する
- (2) 関連施策との有機的な連携を強化して総合的に取り組む
- (3) 対応の段階に応じてレベルごとの対策を効果的に連動させる
- (4) 実践と啓発を両輪として推進する
- (5) 関係者の役割を明確化し、連携・協働を推進する
- (6) 自殺者等の名誉及び生活の平穏に配慮する

＜基本施策＞

- (1) 自殺に関する調査・研究の推進
- (2) 自殺に関する市民の理解の推進
- (3) 自殺対策を支える人材の確保・育成
- (4) こころの健康づくりの相談体制の整備・充実
- (5) 地域でのネットワークの強化
- (6) 自殺発生回避のための社会的取組の推進
- (7) 自殺未遂者、自殺者の親族等関係者に対する支援の充実
- (8) 自殺対策に関する活動を行う民間団体との連携

＜重点施策＞

- (1) こども・若者への支援
- (2) 女性への支援
- (3) 高齢者への支援
- (4) 生活困窮者への支援
- (5) 勤務・経営問題による自殺への支援
- (6) 総合的な自殺対策の更なる推進

● 目標

（1）自殺死亡率の減少

【現状】
松山市自殺死亡率：17.9
（令和5年）

【目標値】
12.6以下
（令和10年）

（2）自殺者数の減少

【現状】
松山市自殺者数：90人
（令和5年）

【目標値】
65人以下
（令和10年）

※厚生労働省人口動態統計